

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	13-010	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prospective study of alcohol consumption and the incidence of the metabolic syndrome in US men. 米国男性における飲酒とメタボリック症候群発症とに関する前向き研究		
執筆者		
Stoutenberg M, Lee DC, Sui X, Hooker S, Horigian V, Perrino T, Blair S.		
掲載誌		
Br J Nutr. 2013 Sep 14;110(5):901-10. doi: 10.1017/S0007114512005764. Epub 2013 Jan 23.		
キーワード		PMID
飲酒、メタボリック症候群、前向き研究		23340203
要 旨		
<p>目的： 飲酒とメタボリック症候群(MetS)との関連の研究は多くない。米国の男性において飲酒とMetS発症との関連を検証することが本研究の目的である。</p> <p>方法： ベースライン時に MetS と循環器疾患とを有さない白人男性 7,483 人を前向きに研究した。第一回目の臨床調査時に、飲酒、健康状況、フィットネスレベルに関する情報を得、追跡調査時 (1979-2005 年) に追加の健康関連情報と MetS 発症の情報を得た。</p> <p>結果： 非飲酒者と比べて、軽度飲酒者 (1-3 ドリンク/週 : 1 ドリンクはアルコール換算 12~13g)、中等度飲酒 (4-7 ドリンク/週)、中-大量飲酒 (8-13 ドリンク/週)、大量飲酒者 (14 ドリンク以上/週) の MetS 発症の多変量調整ハザード比 (95%信頼区間) は、それぞれ 0.81 (0.68, 0.95), 0.68 (0.57, 0.80), 0.70 (0.59, 0.83) および 0.78 (0.66, 0.91)であった。この関連は、全ての年齢層、MetS 関連危険因子を既に一つ以上有する者、体格指数 (body mass index) が 25 kg/m² 以上のもの、全ての種類のアルコールについて認められ、またほとんどの飲酒量について同様であった。飲酒量と HDL-コレステロール低値の間には負の量・反応関係が認められた。また、食後血糖高値は、軽度・中等度・中-大量・大量飲酒と関連していた。飲酒は中心性肥満、高中性脂肪血症、高血圧との有意な関連は認められなかった。</p> <p>結論： 全ての飲酒量レベルが MetS 発症と有意な負の関係を認めた。この関係は、過体重~肥満者、MetS 危険因子保有者で特にこの傾向があり、アルコールの種類に関わらず認められた。</p>		